

ソフトからハードへ華麗な転身！

株式会社 三和工機



代表取締役 外山克則氏
柏崎市茨目3-11-48
Tel.22-5094 Fax.23-0151

冬の到来を感じさせる冷たい風の吹く十一月下旬、市内茨目にある(株)三和工機に伺い、代表取締役外山克則さんに話しをお聞きしました。

外山さんは昭和四十九年生まれで、四十四才。希望ヶ丘のお生まれで、市内小・中・高校を経て、九州にある大学に進学、大学では経済学を専攻。卒業後は新潟に戻り、スーパーマーケットに就職。三十七歳の時に縁あって(株)三和工機に移り、社長として経営にあたることに。

流通のスーパーマーケットからまったく畑違いのものづくりの工場への転身。どんなきっかけがあったのかとお聞きすると

「もともと、前社長が父親の知り合いでした。跡取りがいなかったため、私が三十歳を過ぎた頃から、会社を継いでくれないかと、誘われて

はいたんです」誘われた当初は、転職する気はなく、聞き流していたそうです。ただ、その後も繰り返し声をかけ続けてもらい、五年後に転身を決断しました。その理由としては、スーパーマーケットでの勤務は転勤がつきもので、このまま続けていくよりは、そろそろ柏崎に落ち着きたいと思ったことが大きいそうです。

転職を決めたものの、当然工場の経験は全く無い為、まずは現場での作業から始め、そして営業、管理業務へと移っていきました。

取材の途中から、市村常務さんも加わり、会社の状況をお聞きしました。

取引先はリケンを中心に、県外企業も多くあるそうです。加工設備については、市村常務さんと相談しながら毎年増やしていて、現在の建屋ではこれ以上は入れられないところまでになったそうです。当面は、今お付き合いのある取引先とのパイプを、もつと太くすることを一番に考えているそうです。

趣味をお聞きすると、

「お酒と、ゴルフですね。ゴルフ仲間とプレーしたり、飲みに行くの

が今の楽しみです」と外山さん

今後の夢は、IT、IoT、AIなど情報化を進めていきたいとのこと。そして老後は好きなことをして過ごすことを楽しみにしているそうです。

ソフトの流通業からハードの製造業へ、全く違う世界に飛び込んだ外山さん、その決断に圧倒された取材でした。

(千人衆(取)・(昔)取材)

